

HP 掲載文

患者さんへ ～肺病変を有する MCD (Multicentric Castleman Disease) の臨床・画像・病理学的検討利用に関するお願い～

平成27年1月27日

キャッスルマン病とは、1956年にキャッスルマン博士らによって報告された疾患で、リンパ増殖性疾患に分類されます。キャッスルマン病には、身体の一部のリンパ節が腫脹する限局型と、全身のリンパ節が腫脹して発熱や肝脾腫を伴う多発型があり、限局型のほとんどは無症状ですが、多発型では何らかの症状を伴うことが一般的です。この全身性の症状を伴うタイプは多中心性キャッスルマン病 (MCD) と呼ばれ、リンパ節、肝臓、脾臓でBリンパ球が増殖すると同時に、そのリンパ球からインターロイキン-6 (IL-6) という蛋白質が過剰に分泌されることでさまざまな症状を呈します。

増殖したリンパ球から分泌される IL-6 は様々な炎症に関与しているため、過剰な分泌により、発熱、全身倦怠感、食欲不振、体重減少、発疹などの症状や、貧血、CRP 上昇、低アルブミン血症、高ガンマグロブリン血症などの検査値異常が引き起こされます。肝臓や脾臓が腫大することがあるほか、肺や腎臓の機能が低下することによって咳、息切れ、むくみなどの症状がでることもあります。症状の進行の速さはさまざま、週～月単位で急速に進行するものから、年単位で経過する場合があります。本症は悪性の疾患ではありませんが、長期にわたると肺や腎臓の障害を引き起こすことがあります。本症の問題点は、原因が不明であることに加え、他に鑑別するべき病気も多く診断するのが難しいところです。どのような特徴があればこの病気と診断して良いのか、他の紛らわしい病気とどのように区別するのか、どのような時期にどのような治療法が効果的なのかは、まだまだ検討する余地があります。

現在、私たちは MCD の患者さんを多数診療している全国の主要な施設と共同で、肺病変を有する MCD の患者さんの臨床データ (喫煙、血液データ、呼吸機能検査、実施された治療内容、その効果判定など) を収集分析し、その特徴と有効な治療法を検索することを目指しています。対象となる方は、2000年1月1日から2013年12月31日までの間に、肺病変を有する MCD で当科に受診された方です。

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究に於いて臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡下さい。本研究への登録を取りやめてほしいとご希望の場合も、今後の治療上で不利益を被るようなことはありませんのでご安心ください。

お問い合わせ先:

国立国際医療研究センター病院 呼吸器内科

泉 信有

162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

電話:(03)3202-7181 (代)、Fax (03)3207-1038